

反グローバリズム再考：  
国際経済秩序を揺るがす危機要因の研究  
「世界経済研究会」報告書

令和2年3月



公益財団法人日本国際問題研究所  
The Japan Institute of International Affairs

## はしがき

本報告書は、当研究所の令和元年度外務省外交・安全保障調査研究事業（総合事業）「反グローバリズム再考：国際経済秩序を揺るがす危機要因の研究」プロジェクトにおいて実施した「世界経済研究会」の最終成果をまとめたものです。

近年、英国の EU 離脱や米国の自国第一主義政策への傾向等に看取されるように、先進諸国において反グローバリズム的ポピュリズムが勢いを増し、リベラルな国際秩序から背を向けて、自国優先が強まることで、国際秩序・協調を大きく揺るがす事態が起きています。各国国内に目を転じると、グローバル化や技術革新の進展により経済社会の急激な変化から取り残された人々が、格差拡大等の問題に適切に対処できない政治社会に対して不満を表明しているといった背景があります。その帰結として、グローバル政治における多国間主義や国際協調が困難に直面するといった、構造的に起因する極めて複雑かつ深刻な問題であると言えます。

本事業は、「反グローバリズム」の背景にある経済・政治・社会の要因を解明し、その根本原因を正しく理解し、対処すべき課題に対して提言を行うことを目的としています。本事業では、主に経済問題を扱う「世界経済研究会」（主査：稲葉延雄・リコー経済社会研究所常任参与）と、地政学的問題を扱う「グローバルリスク研究会」（主査：立山良司・防衛大学校名誉教授）の2つの研究会で構成され、各研究会が連携することで学際的なアプローチで研究課題に取り組むことを狙いとしています。

「世界経済研究会」では、反グローバリズムの経済的要因の解明とその解決策について検討を行っており、米国・中国・EUの政治経済、米中貿易戦争、WTO改革、多国間主義の機能、新興技術・第四次産業革命、産業界の役割等の幅広いテーマをカバーし、世界経済の長期的な課題を明らかにした上で、その処方箋を提示しています。

本報告書は、平成29年4月に開始した3カ年事業の「最終成果」となります。現在、新型コロナウイルス感染症拡大が深刻化し、各国の経済社会および国際秩序に影響を及ぼす新たな危機要因として猛威を振るっています。本報告書では、新型コロナの影響は直接的には扱っていませんが、世界経済の長期的な課題を明らかにしたという点で、新型コロナ収束後の経済社会の在り方を考える上での重要な材料を提示しているものと考えます。また、本報告書に表明されている見解は全て各執筆者個人のものであり、所属の機関や当研究所の意見を代表するものではありません。

最後に、本研究事業に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力をいただいた両主査先生ならびに執筆者各位、その過程でご協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚の敬意と謝意を表します。

令和2年3月

公益財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 佐々江 賢一郎

## 研究体制

|        |        |                          |
|--------|--------|--------------------------|
| 主査：    | 稲葉 延雄  | リコー取締役会議長／リコー経済社会研究所常任参与 |
| 委員：    | 岩本 晃一  | 経済産業研究所／日本生産性本部上席研究員     |
|        | 馬田 啓一  | 杏林大学名誉教授                 |
|        | 浦田 秀次郎 | 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授      |
|        | 河合 正弘  | 東京大学特任教授／環日本海経済研究所代表理事   |
|        | 川野 祐司  | 東洋大学経済学部教授               |
|        | 城山 英明  | 東京大学大学院法学政治学研究科教授        |
|        | 高木 聡一郎 | 東京大学大学院情報学環・学際情報学府准教授    |
|        | 橘木 俊詔  | 京都女子大学客員教授／京都大学名誉教授      |
|        | 中島 厚志  | 経済産業研究所理事長               |
|        | 中林 伸一  | 欧州復興開発銀行日本代表理事           |
|        | 丸川 知雄  | 東京大学社会科学研究所教授            |
|        | 安井 明彦  | みずほ総合研究所欧米調査部長           |
| 執筆協力：  | 中川 淳司  | 中央学院大学現代教養学部教授           |
| 委員兼幹事： | 中山 泰則  | 日本国際問題研究所 所長代行           |
|        | 中野 大輔  | 日本国際問題研究所 研究調整部長         |
|        | 柳田 健介  | 日本国際問題研究所 研究員            |
| 担当助手：  | 園田 弥生  | 日本国際問題研究所 研究助手           |

(敬称略、主査以降五十音順)

# 目 次

|                                     |              |
|-------------------------------------|--------------|
| 序論 反グローバリズム再考：国際経済秩序を揺るがす危機要因の分析    |              |
|                                     | 稲葉 延雄 ……………1 |
| 第1章 反グローバリズムについて—世界経済からの視点—         |              |
|                                     | 中島 厚志 …… 13  |
| *補論1 社会の安定と持続的成長のための産業界の役割          |              |
|                                     | 稲葉 延雄 …… 29  |
| 第2章 グローバル化と米国政治                     |              |
|                                     | 安井 明彦 …… 39  |
| *補論2 民主主義の機能：アメリカのポピュリズムをケースに       |              |
|                                     | 柳田 健介 …… 51  |
| 第3章 「深化」という EU のグローバル化は有効か          |              |
|                                     | 川野 祐司 …… 57  |
| 第4章 グローバリズムへのアンビバレンス                |              |
| —「中国製造 2025」と中国の IC 産業              |              |
|                                     | 丸川 知雄 …… 75  |
| 第5章 「一带一路」構想と「インド太平洋」構想             |              |
|                                     | 河合 正弘 …… 95  |
| 第6章 保護主義の台頭と岐路に立つ世界貿易体制             |              |
|                                     | 浦田 秀次郎 ……157 |
| 第7章 揺らぐグローバル通商秩序と日本の通商戦略            |              |
| —トランプ米政権の暴走に歯止めをかけられるか—             |              |
|                                     | 馬田 啓一 ……169  |
| 第8章 WTO 改革の動向と課題                    |              |
|                                     | 中川 淳司 ……189  |
| 第9章 グローバリゼーションに対する G20 および IMF の処方箋 |              |
|                                     | 中林 伸一 ……207  |

|        |   |              |
|--------|---|--------------|
| 第 10 章 | 多国間主義のレジリエンス<br>—重層性、専門家・地方政府ネットワーク、セキュリティ化、<br>国内制度構造— | 城山 英明 ……221  |
| 第 11 章 | 分散台帳技術を用いた非中央集権的ガバナンスの理想と現実                             | 高木 聡一郎 ……243 |
| 第 12 章 | 情報通信技術が作り出す経済格差   | 岩本 晃一 ……259  |
| 第 13 章 | 反グローバリズムとポピュリズムの動向と意味                                   | 橘木 俊詔 ……281  |
| 終 章    | 持続可能な経済社会の構築と経済グローバルガバナンスの再構築に向けて<br>……………              | ……………293     |